

3/7

Mar 7, '04

参加者：
伊藤、北島、小海、斎川、中島、
安田、山下、遊佐、吉野、
お見送り；秋元

BMW RS Club

かわらばん

春まだ浅い箱根の旧道では、
前夜からの冷え込みで、道の端に
は名残りの雪が残っていました
かわらばん；中島邦雄 挿絵；小倉玲子

春を呼び込むかのように梅が花開き、その花の中を蜜を求めて、メジロが可愛い仕草で飛び回る日々となりました。この冬は気温が零度を下回る「真冬日」が一日も無く、本格的な春の到来も間近かと思われました。ところが冷たいみぞれの降る寒い三月の入りとなり、又もや冬に逆戻りをしてしまったかのような感じです。春はまさに三寒四温の繰り返しですね。《篝火(かがりび)に黒田の川面が照らされ、シラウオ漁が始まる江戸の街々は春だった》と言われ、「明けぼのにしら魚の白きこと一寸」と芭蕉が春の到来を詠った、その春を告げるシラウオも、小さいながら魚屋の店先に並び始めました。沈丁花が香り町中が日毎に明るさを増すそんな日々の中で、今年は記念すべきクラブ結成25周年目の、その最初のツーリングの日を迎えました。何人かの仲間が去年でクラブを離れ、同時に新しいメンバーも加えて新たなクラブの再開です。

首都高速の入り口に近い皇居の周りでは、お堀に沿って彼岸桜が早くも開花し、その周囲を明るく照らすかのようでした。コヒカン桜も垂れ下がるような深紅の花を付け、木々の緑も日毎にその輝きを増し、桜の蕾も膨らみ始めまさに春の到来です。三軒茶屋を過ぎると朝日に染まった富士山がピンク色に輝いて現れ、山登りでしか味わえないモルゲンルート(朝焼けの雪山)を見たかのようでした。見事に晴れ渡った朝ですが、凜(りん)とした感じで空気が冷えています。

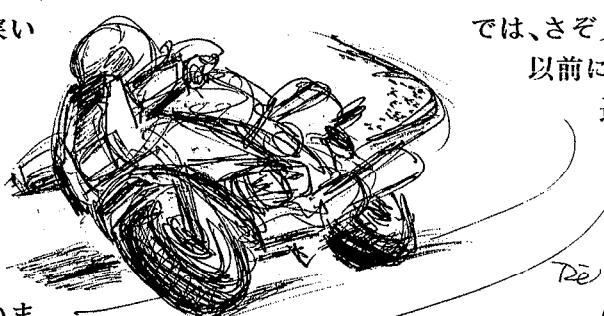
寒さのせいか集合地の「東名海老名」にはなかなか参加者が集まらず、近場という安心感から出発が少々遅れましたが、車で静岡に向かうという秋元さんに見送られ、新メンバー二人を含む参加者九人で出発、日が高くなり気温も上がり始めました。

「小田原厚木道路」を抜け我がクラブでは珍しく国道一号線に入りました。湯本駅の手前の三枚橋を左に渡り、昔の旅人が箱根越えをした旧道に入りました。箱根細工で名高いこの辺りの「畠宿」では、其処ここに詰木細工の看板が掲げられ、走る程にやがて道路の端に雪が現れました。出る時にパソコンを見ると、箱根の早朝の気温は-5度と出ていましたから、少し前までは雪だったのかも知れません。甘酒茶屋の前を通り過ぎ、更に芦ノ湖へと下って、箱根神社へ些か遅い初詣でに寄りました。長い歴史を秘めた杉木立の中に赤い大鳥居が聳え立ち、その先のやや長い石段を登り、社殿で神妙に手を合わせました。いつまでも何かをお願いしているメンバーが「¥100円でそんなに願い事をしても駄目だよ」と北島さんに言われていました。新年二日には有志で二宮神社に参拝し、この日は箱根神社で願をかけ、今年はキット靈験あらたかな年となることでしょう。

杉木立に包まれた神社を出て「芦ノ湖」湖畔に出ると、急に辺りが明るくなり、なにか現実に引き戻されたような感じでした。晴天の湖上にはワカサギや鱒釣りのボートがかなり出ています。其処から関所跡を右手に見ながら走り一号線を左折して箱根峠へと向かいます。芦ノ湖スカイラインをご機嫌で飛ばし、枯れススキの仙石原を抜け、今日のお食事処「猿石閣」へ12時少し前に到着しました。「小田急ハイランド・ホテル」の斜め前に在るこの場所は、以前にクラブで一度来ましたが、その時は洒落た数寄屋造りの日本間で食事をした事を覚えてますが、今回はロッジ風の建物でゆっくりと温泉を楽しみました。温泉はぬる目に感じる白濁したお湯でしたが、出てくると体がポカポカと暖まっていました。お風呂の外に出ると滝からの水が浮草の浮く小さな池に流れ込み、その池から細い流れを造って流れ出し、静かな中でその水音だけが聞こえてきました。その池の前に在るモダンな造りのレストランで、懐石風の食事を楽しみました。折角の風呂上がりなのにビールを飲めないのが残念で、未練たらしくノンアルコール・ビールを頼んだら「こちらには置いていません」とのつれない返事でした。

温泉と食事をゆっくりと楽しみ、外に出ると流石に外気温の下がっているのが感じられ、寒くならない内に早目に帰ることとなりました。午前中は明るく輝いていた太陽が、午後になって雲に隠れ薄ら寒いよう感じになってしまいました。

通りを左に行けば東京方面ですが、御殿場ICから東名高速で一気に帰るルート設定になっていて、乙女峠を下りました。眼前に迫り来るような富士山は、頂上の遙か下の方まで雲に覆われていますが、往路には雪に包まれて見えたのが、こちら側からは刷毛でなぜたように雪が残り、筋目のように残る雪の間から荒々しい地肌が顔を出していました。



最後のトンネルを抜けると大きなドライブインが有りますが、その脇の処が金時山への登山口で、リックサックを背負った人が、何人も山を下ってきました。今日の昼間の天気では、さぞ見事な富士山が見られた事でしょう。以前には湿性花園位しか無かった箱根に、近頃は美術館や00館とかXX博物館が余りにも増え過ぎて俗っぽくなり、かつての良さが次第に薄れて行く気がしてなりません。特に今日のように終日この中を走っていると、その感を一層深めたのは私だけだったでしょうか。もう少し次の世代に昔からの良さを残しても良さなものなのに、と痛切に感じた今日のツーリングでした。

御殿場の本を読むと必ず出てくる名店に「二の岡フーズ」というハムやソーセージの店が有ります。一見すると農家風の何の変哲も無い店ですが、いつ行っても小さな店先に一杯の客で溢れかえっています。この辺りに昔バテレンと呼ばれた宣教師が住んでいたそうで、自分達の食べるハムやソーセージの造り方を地元の人に教え、この店ではそれを売り物にしてパンフレットにも写真を載せ昔ながらの製法で造って、多くの食いしん坊を喜ばせています。ボロニア・ソーセージがこの店の売り物で、フランス・パンを軽くトーストし、ニンニクを擦り込みバターをぬってから、それを載せて食べると素晴らしい酒の肴になり、ワインやウイスキー、ビールにもピタリでお客様のもてなしにも最適です。私は暮になるとバイクを飛ばして買い込みに通っています。北さんと二人で買い物を済ませたところに、「散々探し回ったよ」と仲間が駆けつけてきました。

此處で今日の解散となり御殿場ICより帰途に就きました。そうそう乙女峠を下りインターに入る手前で、東名高速のガードに沿って左に入ると左側に「金太郎」という入り口でかがり火を焚いているソバ屋が有ります。富士の伏流水と地元の山芋で「こねた」という蕎麦を売り物にしていて、霧氷気のとても良い美味しいお店です。箱根の帰りにでも寄ってみませんか。

今回のツーリングを切り盛りして下さいました北島さんご苦労様でした。短めの距離で早々と帰宅も出来て最高でした。